

らい、多職種がお互いの立場を理解しながら協力し、患者さんやご家族へのサービスの質の向上を図ることを実践すべく努力してきました。

平成21年、左京医師会の理事になり今に至るまで理事をやっているのですが、ここでは左京の精神科以外の医師と沢山出会えました。地域で様々な診療科の医師と知り合いになることは病院と診療所との連携（病診連携）病院と他の病院の連携（病病連携）が密になり、結果的に患者さんに利益をもたらしてくれます。

その後、京都府立医科大学、京都大学の先生方らと共に京都市や京都府の認知症対策の仕事に参加してもらい、さまざまな地域の医療・介護分野の人と出会い、仕事をすることが出来ました。認知症医療・介護においては、医療介護関係者や地域住民への啓発活動も非常に大切であり、その一端を担えたことも有意義だったと思っています。

このような中で築けた医療・介護分野の人たちとの関係を大切に今後も診療していきたいと思っています。

■当院が目指すこと

北山病院をどういう病院にしたいかということですが、質の高くあたたかい医療や介護を提供し、患者さんや家族、それに働く職員にも「選

ばれる病院」であることが一番大切だと思っています。

患者さんや家族の方に「北山病院で診てもらおう」と思っていたら、「ここで診てもらえてよかった」と感じていただけるように、また、連携する病院や診療所の先生方には「北山病院で診てもらえたら、安心だ」と思っていただけのように努めなければならぬと思っています。

病院は患者さんやご家族さんの幸せを目標とするのですが、同時に地域の皆さんや我々医療・介護に携わるものの幸せも目標とします。職員にも「この病院で働きたい」と思ってもらい、どこかの病院で働きたいと思っている知人や親戚がいれば「北山病院は働き甲斐がある、いい病院だよ」と言ってもらえるような病院であり続けたいと考えています。

北山病院は青年期から高齢者まで、疾患としても精神病（統合失調症など）、気分障害（うつ病など）、認知症、その他さまざまな疾患を持つ患者さんの診療を幅広くしていますが、どのような患者さんに対しても常に敬意と好意をもって寄り添い、よく話を聴き語り合い、ともに歩むという姿勢が必要なのだろうと思っています。

「自分が患者さんの立場だったらどう思うだろう」「自分が患者さんの家族だったら医者

の説明やスタッフの対応をどう感じるだろう」と、相手の立場をイメージすることを常に心がけるようにしたいと思っています。

これからも、全ての職員が、より良い医療・介護を提供できるように努めてまいります。何卒よろしくお願いいたします。

